



た女性群と外で夕食時間まで幸せな時間を過ごした。馬肉のすき焼きが目玉でした。

8/7;計画より 30 分早めて小屋を出発し、「赤岩の頭」に向かう。本日唯一の登りで、道は昨日と違ってきわめて歩き易く助かる。それでも標準時間の 1.3 倍。一番乗りの「赤岩の頭」では目の前の東側には硫黄岳・横岳の尾根が逆光にドーンと迎えてくれ、西側には久しぶりに広がる雲海に出会えた。快晴の下、絶景を眺めながらの朝食となった。このあたりが森林限界らしく、後はもっぱら苔に覆われたシラビソ林、白樺林・・・と約 1000m を歩幅を小さく慎重に下り、膝痛になる方も無く無事下山出来た。途中の赤石鉱泉では山岳診療所の市川医師からオリジナルのチロルチョコを頂き、お守りに大切に持ち帰る。美濃戸山荘で岩稜組と合流し、計画時間通りに美濃戸口に着けた。

3人の晴女のおかげで、計画通りのコースをメンバーのご協力が無事に走破出来、充実した楽しい時間でした。体調が戻らず直前にキャンセルになった0さんは又の機会に！ヒヤリハット；ありませんでした。



高見石小屋



赤石の頭 横岳天望



東天狗岳南からの展望

## 夏山登山(易コース)感想文

竹原順治

1 日目はルンルンだった。1 時過ぎに白駒池入口の駐車場でバスを降り、林の中を白駒池に向かう。青苔荘の前の無人のボート乗り場で遅い昼食をとる。昼食後、池を時計回りに半周して高見石小屋へのゆるやかな山道を登って行く。林の中に広がる一面の苔が見事だ。高見石という名の通り火山性の黒い岩の最後の急坂を上り切れば、一面の岩の上に建つ岩見石小屋が我々を迎えてくれた。時刻は 3 時半。ベランダで乾杯した缶ビールのうまかったこと。しかし、我々の到着を待っていてくれたようにきつい雨が降ってきた。到着がもう少し遅ければこのきつい雨に晒されていたと思うとこの幸運に感謝するしかない。



2 日目の行程は 6 km 余り、標高差は 600m 程度あるがゴールのオーレン小屋まで 6 時間もかければ十分であろうとの計画で 6 時 45 分に高見石小屋を出発。それが甘かった。最初のピークである中山までの 250m の登りは等高線の幅は広いが、ほぼ直登であり結構きつい 1.5km 余りであった。しかし、ここまではまだ序の口。中山峠から東天狗までの 1km 余りが超難関。武奈トレーニング登山の青ガレが 160 m の高さで行く手を遮るような状況。ストックをリュックにしまい込み、三点支持で岩や木や木の根



に手足を掛けながらの登坂。これはとても易コースではないとの泣き言が各人の口から洩れる。そんなこんなでとにかく計画より約 1 時間の遅れであったが、東天狗頂上に到着したときは本当にうれしかった。登りの体力消耗で、下りもペースは上がりずオーレン小屋到着は予定より 1 時間 30 分遅れの 3 時過ぎ。ここは風呂が使えるという山小屋であったが、湯に浸かる前にまず乾杯。よく冷えた缶ビールを 2 本も飲み干してしまいました。旨かった。

予想外の難コースであった昨日の反省から、3 日目の出発は 5 時に早めることにした。最初に赤岩の頭まで 380m 登り切れば、あとは 1000m の下り、全行程約 10 km の道のりだ。最悪、東天狗のような厳しい登りを覚悟しての早朝出発であったが、取り越し苦労であってくれて安堵した。6 時 20 分、早朝の赤石の峰の景観は素晴らしかった。紺碧の空、すぐ目の前に硫黄岳を望み、高度 2600m での山々のたたずまいを眺望しながらの朝食は、夏山登山に参加して本当に良かったと心から思わせてくれた。これぞ夏山登山の醍醐味という以外の言葉が出てこないという状況であつ





た。この感動に浸ること40分、あとは長丁場の下りが続く。450mの急坂を慎重に下り切り、8時40分赤岳鉱泉に着けば、あとはなだらかな下りが続く。30分毎に小休止を取りながらひたすら歩くのみ。美濃戸山荘に11時過ぎに到着。休憩していると追いついてきた難コースチームと合流して、残り2.5kmのなだらかな下り道の歩をすすめ、バスが待っている八ヶ岳山荘の駐車場に先着の岩コースの皆様のお迎えを受けて12時15分に到着。

本当に楽しませていただいた2泊3日の山行でした。計画していただいた皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

## 感想文 八ヶ岳夏山登山を無事、終えて

富田 文雄

山小屋に泊まっの夏山登山は、かなび1月号の道しるべにも記載しましたが、29年前の富士登山以来、又八ヶ岳へも嫁さんと新婚時代に観光ドライブに行っていて以来である。

### 【1日目】

私が想像した以上に立派な観光バス、6時に京田辺を出発し、八ヶ岳まで快適な移動であった。バスの車窓から遠く八ヶ岳を見上げて、これから登るんだと思うと、心がわくわくと緊張感を持った。難コース、岩稜コースの皆さんが登山開始地点で下車後、私たち易コースはメルヘン街道を歩き、白駒池入口に到着。メルヘン街道、緩やかなカーブが続き、いつの間にか、記憶が飛んでいた。(気持ちよく寝ていた)

白駒池周辺は、苔と原生林に囲まれて、緑のじゅうたんのように神秘的な癒しの世界を山行しながら感じる事ができました。白駒池(標高2095m)を周回後、高見石小屋(標高2249m)に向け、苔と原生林の中、ゆっくり登り、無事に高見石小屋に到着した。到着後すぐに、山小屋のラウンジにて、第1回目の高級缶ビール等を皆さんで堪能した。

皆で1日目の振り返りと明日への英気を養うことができました。西川さん手作りの梅酒も皆で分け合いごちそうになりました。美味しかったです。

### 【2日目】

6時より、朝食をとり、6時45分に高見石小屋を出発。久しぶりの山小屋での食事でしたが、夕食、朝食とも洋食でして、昔のカレーライスイメージとは違っており、驚きました。(美味しかったです)

高見石小屋は水も貴重でしたが、食材を山小屋まで運んでくれる方に感謝です。本日、一番の山行目標の東天狗岳に向けての山行となりました。メンバー想定していなかったのは、易コースなので、登りはあるものの、1日目と同様、八ヶ岳の原生林の中をゆっくりと山行すると思っていたが、ふたを開けると、結構、大きな岩場を登る場面もあり、岩稜コース易編のようでもあった。皆で滋賀武奈ヶ岳の青ガレの10倍程度の行程を経験したようであった。この時に事前の夏山登山訓練の大切さを痛感したところである。無事、東天狗岳山頂に到着。これまで曇って視界が閉ざされていたが、晴れレ

ディ3名様のおかげで、視界が少しずつ開けてきた。その後、根石岳山荘を経由して15時頃オーレン小屋に無事、到着。到着後、2日間の汗を流す上でもお風呂に入るもありだったが、喉の渇きに耐え切れず、すぐに、山小屋のラウンジにて、第2回目の高級缶ビール等を皆さんで堪能した。天候も回復してきており、自然のクーラーの中でのビールは最高でした。

### 【3日目】

5時にオーレン小屋を出発。最終日、最後の登りとなる赤石の頭を目指して登山を開始した。朝一番の登り、しんどいところもあったが、途中、雲海の上の素晴らしい景色を見ながら無事、赤石の頭に到着。オーレン小屋で握ってもらったおにぎりを食べながらあたり一面は青空に恵まれ、硫黄岳、横岳等を見上げることができた。

八ヶ岳夏山登山を無事終えて、まずは、この夏一番の思い出と達成感である。

自分自身の振り返りとして、

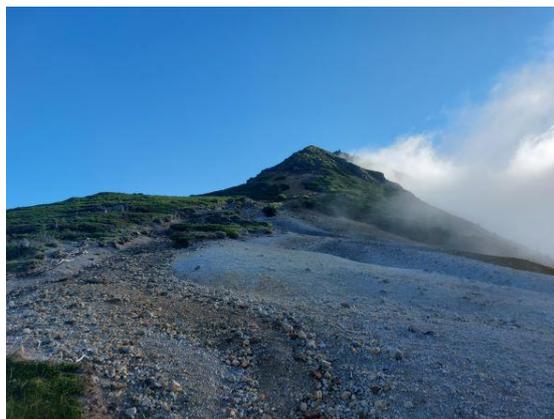
- ・夏山登山本番の前に、一緒に山行するメンバとのチームワークを作る上で、事前の滋賀武奈ヶ岳訓練、京都金毘羅山 Y 懸尾根訓練、事前の夏山登山説明会(段取り合わせ)の重要性
- ・今回、山下さんがCLとして行程の計画を立てていただいたが、コース時間の設定(標準の1.4倍)の難しさ(今回経験する中、登りと下りの設定の考え方として、参加メンバにあわせた登り1.6倍、下り1.4倍がノウハウとなった)
- ・易コースの中で先頭は竹原さん、最後尾は私、中間に山下さんの並びで取り組んだ。

最後尾の私は後ろから皆さんの山行具合(遅れている人はいないか、体調具合等)を見る役割だった。逆に先頭は、はじめて遭遇する場所をその場で判断、危険ポイントは皆に伝える等、の大変さを後ろからついていく中、感じた。

2000m級の複数日に跨った山行経験を今後の山行に活かしていきます。八ヶ岳夏山登山メンバーの皆さん、お世話になりました。



赤石の頭にて



赤石の頭から硫黄岳を見上げる